

会 議 録	
会議名称	第3回 長野市立長野中学校・長野高等学校改革検討委員会
開催日時	令和8年8月28日 午前10時00分から午後12時02分まで
開催場所	市役所第一庁舎4階 教育委員会室
出席者	委員) 高口委員長、小林副委員長、千野委員、青木(大)委員、常田委員、市川委員 職員) 前島教育次長 市立長野高等学校兼市立長野中学校 廣田校長 市立長野高等学校 原事務長、矢澤教頭 市立長野中学校 宮崎副校長 学校教育課 山口課長、五明課長補佐、山本教頭兼主任指導主事
議 題	(1) アンケートの集約結果について (2) 探究学習と中高一貫教育について (3) 高校における学年集団の構成について
議事内容及び決定事項	(1) アンケートの集約結果について ・資料に基づき、委員からのアンケート集約結果及び今後の検討項目案について事務局から説明。 【議事内容(発言要旨)】 市川委員 生徒との意見交換では、地域課題に関心があるとの意見があった。地域や企業、大学等と連携し、地域課題や身近な問題が深い探究活動につながる仕組みづくりができればと思う。 千野委員 アンケートはうまくまとめてもらった。企業や大学等の外部機関や地域との連携は国際教育、DX、探究学習など全体に関わる部分である。外部機関との包括協定等の締結も必要ではないか。 青木(大)委員 アンケートのまとめとしては、このまとめ方でよいが、検討事項の項目立てとしては探究学習と中高一貫教育を並列表記することに違和感がある。中高一貫教育も地域等との連携と同じく、全体に関わることである。 小林副委員長 学力向上と中高一貫教育が並列表記ならわかる。 高口委員長 地域等との連携の重要性については、アンケートにも記載があった。地域等との連携及び中高一貫教育については、全体に関わる話なので検討項目を再構成してほしい。 廣田校長 中高一貫教育、地域連携がベースであることはご指摘のとおりであるが、アンケートで探究学習における中高連携が課題であるとの意見をいただいたため、探究学習と中高一貫教育を並列表記させていただいた。

	【決定事項】 事務局案の検討項目で協議を進め、答申案をまとめる際に項目立てを再検討することとした。 (2) 探究学習と中高一貫教育について ・資料に基づき、市立長野の中高接続を意識した取組、近隣中高一貫校の学級編成等及びこれまでの経緯について事務局から説明。 【議事内容（発言要旨）】 高口委員長 過去に行われていた中3・高1の副担任制や中入生の先取学習等を再開する考えはあるか。 廣田校長 先取学習については、生徒と教員の負担軽減、カリキュラム編成が困難であることから、現時点では再開を考えていない。副担任制については、生徒に深く関われるいい取組ではあるが、高校教員の異動目安である7年のうち6年が拘束され、途中で担当を変えられないという課題が生じる。この学校運営上の柔軟性の問題と教員の負担軽減から、副担任制を廃止した経緯がある。もちろん、検討委員会の答申があれば検討する。 青木(大)委員 中高接続は、高校1年生のカリキュラムが課題だと感じる。中入生のニーズとギャップがあり、中学校の学習との連続性が課題ではないか。この高校1年生の「産業社会と人間」の授業を工夫しないと中高接続の課題は解決しないのではないか。 廣田校長 ご指摘のとおり「産業社会と人間」という科目には、中学校から積み上げてきた探究活動と接続するような工夫が現在なされていないことが大きな課題である。高校1年生の段階で、中入生と高入生の足並みを一度揃える必要がある。中学1年生の社会現象や身近な課題へ広い関心を寄せることから、高校3年生の高度で専門的な探究へと、連続性を持たせたいが、中入生だけ別の探究の時間を設定するのは制度的に難しい。全国的にもない実践例となるので学校としても研究を進めたい。 宮崎副校長 高校で探究する明確なテーマや意思がある中入生にとっては、高校1年時のガイダンス的内容は物足りなく感じる部分もある。中入生の意欲を汲み、高校の学びへとつなげる工夫をしていきたい。 常田委員 中入生が、高入生に対し、中学校で行ってきた探究活動を説明する機会を設けてはどうか。高入生は、同級生の説明で刺激を受け、中入生もアウトプットすることで探究を深める契機になるのではないか。
--	---

市川委員	市立長野は、生徒が自分に合わせた時間割を作れる総合学科という強みがある。この強みを生かしてはどうか。ただ実現するには、多様な選択講座を開設するために予算や教員の確保が必要になる。しかし、総合学科の強みを生かすことで、中高接続が円滑になるのではないかと感じた。
高口委員長	中入生と高入生が同じ方向を向くための課題を設定するとしたら、地域との連携や地域課題の解決といったテーマが適しているのではないか。
(3) 高校における学年集団の構成について	
・資料に基づき、生徒学習集団の構成状況、募集定員の経過と構成の変化及び指定部活動の強み・課題と役割について事務局から説明。	
【議事内容（発言要旨）】	
廣田校長	多様な生徒がいることが市立長野の強みであると開会前にもご意見をいただいた。どの層の生徒にも当てはまるような、誠実さや努力を重ねることの価値といった普遍的な価値観で、学校としての方向性を一つにまとめていってはどうかと考え始めている。皆様から多様な生徒をどのように一つにしていくかについても、ご意見をいただければと思う。
千野委員	市立長野には、多様な生徒が在籍・交流している社会の縮図のような環境があり、実社会で必要とされる協働関係やパートナーシップが育まれることが強みだと感じる。こうした多様な生徒のニーズは非常に多様となるため、学校としてどこまで対応できるか整理し、生徒、保護者、地域社会に説明していくことが重要である。説明し理解を得ることで、外部から解決策の提案や支援が得られる可能性もあるのではないか。
小林副委員長	スポーツ志向層は、将来どういった姿を目指して市立長野を選び、卒業後はどうなっているのか。以前結城委員からも質問があったが、市立長野としてどこを目標として部活動を推進しているか教えてほしい。中高接続の問題は、全員中入生にすれば解決するが、部活動が盛んであることも市立長野の強みであるから難しい。例えば、進学コースとスポーツコースに分けて募集・運営することも一つの方法と思う。
常田委員	子どもの部活動へのサポートは大変だったが、頑張っている子どもの姿を見るのは生活に張りが出た。保護者としても、部活動を頑張れる環境は残してほしい。指定部活について、例えばサッカー部のみにすることは可能か。

	廣田校長 市立長野でバスケットボールをやることを目指している中学生の夢を挫くことになること、また指定部活動は入試制度に組み込まれているため入試制度を変える必要があることから、急に変えることは難しい。 青木（大）委員 部活動の強化は、市立長野の強みであり、推進していくべき柱だと思う。 小林副委員長 部活動の強化において、指導者の確保は大きな課題であるが、5つの指定部活において県教委に希望を出すと確保できるのか。また、指導者の教員は、高い意欲を持って来てくれるのか。外部の指導者についても、将来的な確保の見込みはあるのか。 廣田校長 サッカー部のみ部員が多いため、外部の方に指導いただきしており、外部指導者も含め、すべての指導者が意欲を持って取り組んでいる。県教委に配慮いただき、現在指導者は確保できているが、何らかの取り決めをしているわけではないため、継続的に確保できる保証はない。
会議資料	次第 資料 1-1 長野市立長野中学校・長野高等学校改革検討委員会アンケートまとめ 資料 1-2 委員アンケートまとめイメージ図 資料 2 中高接続について 資料 3 高校における学年集団の構成について～指定部活動について～
事務局 (担当課)	長野市立長野中学校 長野高等学校（担当：原） 電話 026-296-1241（直通）／FAX 026-296-1242
注 1）会議録には出席者や発言者名を記載することとするが、氏名を省略するなど記載方法を審議会等で決定した場合は、その決定に従うこととする。	